



学園報



第31号

2017年7月14日発行

発行 学校法人 大阪成蹊学園
広報企画本部 広報企画部

〒533-0007
大阪市東淀川区相川3丁目10番62号
TEL:06-6829-2606
http://osaka-seikei.jp

巻頭特集

進化する大阪成蹊大学

2018年4月、大阪成蹊大学に新しい学びが誕生します。
マネジメント学部には、国際社会でグローバルに活躍する人材を育成する「国際観光ビジネス学科」を開設します。教育学部 教育学科には中学校・高等学校の教員をめざす「中等教育専攻」、そして同時に、さらなる教育の専門職業人を養成する「大阪成蹊大学大学院 教育学研究科教育学専攻(仮称)(修士課程)」を開設(予定・設置認可申請中)し、教員養成力の充実を図ります。
社会のニーズに応え、大阪成蹊大学はますます進化を続けます。

2018年4月開設 マネジメント学部「国際観光ビジネス学科」



グローバル化が急速に進む社会では、英語が話せることはもちろん、異なる文化や価値背景を踏まえて自ら思考し、学習する力を養うことが重要です。国際観光ビジネス学科では、海外留学や充実した英語学習、プロジェクト型の産官学連携授業などを通して、国際的な視野とコミュニケーション能力、課題解決能力を身につけ、未来を切り拓くグローバル人材をめざします。

▶将来活躍したい分野に合わせて選べる2つのコース

国際キャリアコース

国際的な教養と高い英語運用能力、自ら課題を発見し解決していく能力を備え、国内外の企業でグローバルに活躍できる人材をめざします。
想定される進路:グローバル化が進む産業
国内・外資系の金融関連企業・保険関連企業、航空会社、メーカーや商社、マスコミ関連、公務員など

観光ビジネスコース

日本の観光資源を最大限に活用し、観光産業のビジネスプランや地域活性化のための施策、ホスピタリティ・サービスなどを企画・実行できる人材をめざします。
想定される進路:観光関連産業
国内・外資系の航空会社、ホテル・旅館、旅行会社、テーマパーク、プライダム、公務員など

2回の留学で、高い英語力とグローバルに通用する力が身につく

短期海外研修、長期海外留学で大きく成長できる

国際観光ビジネス学科では1年次に、原則全員がカナダ・バンクーバーで約3週間の「短期海外研修」に参加し、現地の語学学校で英語を集中的に学ぶとともに、ホームステイで生きた語学力を身につけます。

加えて2～3年次にはカナダ、アメリカ、ニュージーランドなど様々な英語圏の国から選べる「長期海外留学」に希望者全員が参加できます。長期海外留学では、英語に加えてビジネス、観光、航空などの専門の学びやインターンシップに挑戦することで、さらにグローバルに通用する力を身につけることができます。



※画像はイメージです

留学費用を奨学金として全員に支給

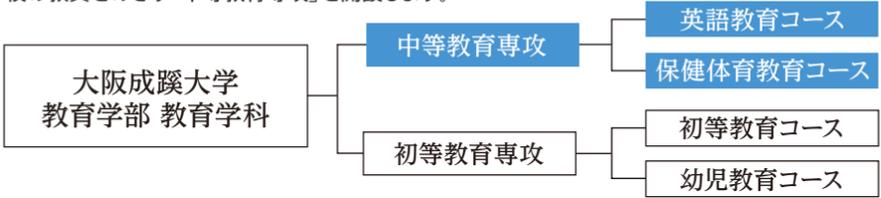
短期海外研修に係る授業料、滞在費、渡航費などの主な費用は、大学が全員に奨学金として全額支給します。また長期海外留学の費用についても一部を全員に支給し、より多くの学生の参加をサポートします。

さらに 留学までに不安な語学力を身につける、英語教育プログラム

毎日行われる英語授業では、専任のネイティブ教員をはじめとする経験豊かな英語教員による少人数指導のもと「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つのスキルをバランスよく伸ばします。また、ベルリッツの学内英会話授業が無料で受けられる「English*CELL」や、スマートフォンやPCからいつでも学習できるeラーニング英語教材「Linc English」を活用し、効果的に英語力を身につけることができます。

大阪成蹊大学の教員養成がさらに進化します!

教育学部教育学科では、従来からある小学校教員をめざす初等教育コース、幼稚園・保育園教員をめざす幼児教育コースを包括して「初等教育専攻」とし、2018年4月、新たに中学校、高等学校の教員をめざす「中等教育専攻」を開設します。



大阪成蹊大学 大学院 教育学研究科教育学専攻(仮称)〔修士課程〕

※大学院は設置認可申請中

2018年4月開設 教育学部「中等教育専攻」

▶将来活躍したい分野に合わせて選べる2つのコース

英語教育コース

グローバル化が加速する現代社会においてより重要性を増す、高い専門性と「英語で授業ができる」高度な英語運用能力、指導力を持った英語教員を養成します。

POINT! 短期または長期留学で、グローバルな教育観を養う

約2週間の短期留学と、3～6ヶ月の長期留学のいずれかを選べる「海外教育演習」では、単なる英語研修や異文化体験にとどまらず、英語教育法に関する研修や現地の教育学部の学生との協働学習、教育インターンシップなど、



教育学部の学びと深く結びついたプログラムを通してグローバルな教育観を養うことができます。また、費用の全額または一部を大学が奨学金として支給し、学生の学びをサポートします。

想定される進路:

中学校教諭(英語)、高等学校教諭(英語)、英語教育関連企業、公務員など

保健体育教育コース

安全で効果的な体育授業やクラブ指導の理論と実践を学び、運動や健康に関する高い専門性と指導力を持った保健体育教員を養成します。

POINT! 生涯スポーツや疾病予防医学にも視野を広げて幅広く学ぶ

スポーツ現場で起こりうるケガのリスク管理や障害予防のほか、アスリート指導に対応するための知識・技術などを、身体の構造と機能を理解した上で幅広く身につけます。そのため、スポーツトレーナーなどスポーツに関わる様々な進路も視野に入れ、夢の実現をめざすことができます。

想定される進路:

中学校教諭(保健体育)、高等学校教諭(保健体育)、スポーツトレーナー、病院内フィットネス、公務員、教育関連企業など



2018年4月開設予定 大阪成蹊大学大学院 教育学研究科 教育学専攻(仮称)〔修士課程〕

設置認可申請中

※計画内容は予定であり、変更する場合があります。

さらに本学では、大阪成蹊大学大学院 教育学研究科教育学専攻(仮称)〔修士課程〕を開設予定です。大学院では、学部で修得する教育の知識や技能を基盤として、理論と実践の往還を重視した学びを展開します。様々な教育実践を省察しながら、日々多様化する教育課題に対して創造的に問題解決のできる、教育に関する専門職業人を養成します。

第31号 学園報



CONTENTS

2面 —もっと知りたい 大阪成蹊学園の学び—
学生がもっと学びたい!魅力的な授業づくり

3面 —教育コラム①—
大阪成蹊学園のグローバル教育・英語教育

4面-5面 —国際交流—
海外研修・留学制度でグローバル人材になろう!!

6面 —教育コラム②—
人間力を伸ばす10の教訓

7面 News & Topics—教育・学生サポート—

8面 クラブ・個人 大躍進!
and more...!

「もっと知りたい 大阪成蹊学園の学び」

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学

学生がもっと学びたくなる！魅力的な授業づくり

◆教学改革に基づく様々な取り組みで、より質の高い授業の実現へ



大阪成蹊大学 副学長兼教育学部長
三村寛一教授

従来の大学教育では、高度な専門的知識や理論を学ぶ必要性から、講義を中心とした授業が主流でした。しかし、技術や知識が次々と更新され、新たな課題の解決が迫られる現代では、新たな学びのスタイルが求められます。そこで大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学では、学生が主体的に問題を見出し、仲間と協働しながら解を導き出していく「アクティブラーニング」を進めています。授業では、はじめに必要な知識や基盤となる考え方を教員が講義します。それを受けて学生は、文献や資料を参考にしつつ、ディスカッションを通して課題を解決していきます。これが「もっと学びたい」という学生の意欲を引き出す仕組みであり、本学が常に高い授業出席率を保っている理由でもあります。

本学園では2016年度に立ち上げた教学改革会議のもとに、大学・短期大学の教員・職員協働による20のプロジェクトチームを編成し、学園の教学改革を進めています。その中で、先ほどのアクティブラーニングを実践するための教員向けハンドブックの発行や、シラバスへのアクティ

ラーニング実施計画の組み込みなどを行っています。またほぼ全授業(※)について、学生の評価を問う授業評価アンケートを実施し、結果を学生にも公開するとともに教員にフィードバックし、教員は担当授業の自己評価・改善計画を行います。

さらに、授業評価アンケートの結果から見てとれるような授業・教育実践に加え、研究面や地域・国際交流などで優れた活動を行った専任教員を対象に部門別の表彰制度を創設し、授業改革の一層の推進を図っています。2016年度後期は大学で17名、短期大学で19名の教員が表彰されました。

大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」にうたわれるように、自ずと人が集まるような徳を身につけるためには、何よりも大学での学びを充実させることが肝要です。そのため、我々教員は、「学生がもっと学びたくなる魅力的な授業づくり」に向けて、日々努力を重ねているところです。

※履修者数が一定以下の少人数科目を除く

授業評価アンケート賞 受賞教員メッセージ

2016年度後期を終えて、大阪成蹊大学からは17人、大阪成蹊短期大学からは19人の教員が、授業評価アンケート賞をはじめとする各部門で表彰されました。今回は授業評価アンケート賞を受賞した教員の中から、お二人にお話を伺いました。



大阪成蹊大学 教育学部 教育学科
赤沢 真世 准教授

受賞授業 「教育課程論(小学校)」
(大規模授業部門)

子どもの「今」に寄り添った授業づくりの 大切さを伝えたい

私は教育方法学を専門とし、主に入門期英語教育の教育方法について研究を進めています。授業は「教育課程論(小学校)」「教育方法論」「外国語活動Ⅰ・Ⅱ」などを担当しています。

授業では、学習指導要領の変遷や教育方法学の知見といった専門的な知識を、いかに学生の興味・関心を惹きつける形で提供できるかを常に考えています。たとえば教育方法論では、色々な教師の授業を少しずつ映像で見せ、「どうして今、この先生はあえて一歩下がったのだろうか?」といったような具体的な問いを提示し、学生が「当たり前」に見てきた教師の(教師らしい)「居方」を問い直すワークを入れたりしています。

また、私の授業では、二つの私自身の「思い」を語っています。一つは、子どもの「つまずき」を大切にすること。子どもの間違いを解説するクイズなどを通して、つまずきには「その子どもなりにちゃんとした論理」があり、教師はできる限りそれを見つめて(=評価)、そこから出発する授業づくりをめざして欲しいと伝えます。もう一つは、子どもは色々な「悩み」を持って教室に居ること。道徳の旧副教材『心のノート』を扱った回では、私自

身のいじめられた経験を話しました。『ノート』で示される理想の私(「友達がたくさんいて、いつでも笑顔の私」)を押し付けるのではなく、そうなりたくても今「しんどい」子どもも教室には居ること、そういう視点を持って欲しいのです。この二つに共通するのは、子どもの「今」に寄り添った授業づくり、教育課程編成の大切さを伝えたいという思いです。

授業後には多くの学生が真剣に感想を書いてくれ、「自分自身が学校教育で感じていた違和感は何だったのか」、「自分が教師になるときはそうした思いに寄り添える教師になりたい」、という学生もいました。こうした意見を見ると、私自身も、大学教員としてここにいる意味がある、と認められたように感じます。

ただ、こうした授業づくりにはゴールがありません。目の前の学生に響く授業を!と日々試行錯誤しますが、上手くいかないことの方が多いかもしれません。学生にとって学びの多い授業づくりができるよう、今後も日々精進していきたいと思っています。



大阪成蹊短期大学 幼児教育学科
谷 俊英 講師

受賞授業 「社会的養護」
(中規模授業部門)

保育者に必要な「福祉」「社会的養護」の 知識を身近に感じてほしい

幼稚園教諭や保育士をめざして養成校に入学する学生のほとんどが、高等学校までで具体的に「福祉」を学んだことがありません。また、「なぜ保育者になるために福祉を学ぶ必要があるのか」と疑問に思う学生は多く存在します。ましてや福祉の中でも、「社会的養護」という聞き慣れない言葉に対しては、入口の段階から「難しそう」というイメージがどうしても先行しがちです。

実際に初回の授業で学生に社会的養護のイメージを聞くと「難しい」「硬い」「よくわからない」といった回答が多くを占めます。そのため授業を行うにあたっては、まず「福祉」や「社会的養護」を出来る限りわかりやすく、なおかつ身近に感じてもらえるように伝えることを心がけています。ただ教員の話聞くだけではなく、児童養護施設や乳児院など社会的養護に関わる施設における生活や支援の様子を具体的に学べるような映像教材を使用するなどしています。視覚的に学ぶことで、学生たちは社会的養護についてイメージしやすくなり、社会的養護に対する正しい理解を促します。正しい理解は、社会的養護に関わる子どもたちの権利擁護にも繋がります。

私自身、児童養護施設の職員としてのキャリアが長かつ

たため現場での経験を話すことが多くあるのですが、社会的養護に関わる子どもたちの多くは虐待を受けており、特にそういった事例をよく取り上げます。学生たちは児童虐待と聞くと自分には縁のない出来事だと捉えがちですが、現在の日本の子育ての現状や環境を鑑みれば、児童虐待はどここの家庭でも起こり得る事象であると言えます。すなわち、保育者として子どもやその保護者と接すること、児童虐待や社会的養護を切り離して考えることはできないのです。その上で、虐待=「悪」と捉えるのではなく、「子育てに困っている」と捉え、そこから保護者支援や子育て支援に繋げるといった考え方ができるよう、指導を行っています。

また授業では上記のような工夫に合わせ、私が一方的に話すのではなく、映像教材や現場の事例紹介に対して感じた意見を学生同士で話し合う時間を設け、学生たちが主体的に参加する双方向型の授業を行うようにしています。

今後も学生たちが社会的養護や虐待を身近なものとして捉え、保育者の知識として重要であると理解した上で学習に励んでもらえるような授業を展開していきたいと思っています。

教育コラム①

国際社会で活躍する力がつく!大阪成蹊学園の

グローバル教育・英語教育

教員・学生に聞く!

共通英語科目「Active English I・II」

～eラーニング教材で、将来に直結する英語力を～

大阪成蹊短期大学

大阪成蹊短期大学では、将来活躍する分野を見据えた専門性の高い英語力の修得を重視し、2016年度に従来の英語共通科目の内容を一新、「Active English I・II」として生まれ変わりました。Active English I・IIでは、1人1台タブレットPCが貸し出され、eラーニング英語教材「Linc English」を通して授業が行われます。Active English I・IIのスタートから1年が経過し、本学の英語教育は大きく変容していま

す。学生は英語学習をどのように捉えているのでしょうか。そして、今後Active Englishはどのように変化していくのでしょうか。今回は本学の英語教育改革を中心となって進めておられる小関教授と、Active English I・IIの授業を担当する寺島講師、またActive English I・IIの受講1期生でもある経営会計学科の学生3人と、中村学科長にお話を伺いました。

点数にも現れています!



座談会に参加して下さった皆さん

●後列左から:
前田美辻稟さん
伯井麻希子さん
山本多佳良さん
(経営会計学科2年生)

●前列左から:
小関佐貴代教授
寺島恵講師(非常勤)
中村映美教授

“Linc English”とは?

東北大学の橋由加教授を中心とした日米チームが共同開発したeラーニング英語教材。専用サイトにログインすることで演習問題に取りかかります。東北大学、大阪大学の授業でも使用されており、さらに本学では専用の4コースを独自に作成、各学科の学びに即した内容をプログラムしています。



▼楽しみながら実践的な英語を学べる授業

—Active English I・IIでは普段どのような授業が行われているのですか。

寺島 タブレットを使って、会話の聞き取りや、写真・イラストについての問いかけ問題に取り組みます。またLinc Englishの設問自体にはスピーキングの要素がありませんので、プレゼンや動画を見てのディスカッションなどを組み込み、英会話を実践する時間も設け、画面にかかりきりにならないような工夫をしています。

—学生の皆さんは、短期大学での英語学習についてどのような印象を持ちましたか。

小関 中学、高校でさんざんやってきたのに大学でも英語、と思ったかもしれないけど(笑)、高校までの英語の授業と比べてどう思ったかな?

前田 高校までの授業では、教科書の英文をひたすら暗記することが多く、英語そのものに対して苦手意識がありました。でも、「Active English」ではタブレットを使用して効率よく学べますし、画像や動画で実際の色々な場面を見ながらなので、分かりやすいです。またスマートフォンやPCからいつでも学べるので、自主学習にも積極的に取り組んでいます。

山本 私は発音やリスニングが苦手でしたが、Linc Englishではネイティブの発音を好きなだけ再生できるので、少しずつ苦手を解消できました。

—英語への苦手意識はなくなりましたか。

前田 楽しいと感じるようになりました。英語に苦手意識を持っている人にもおすすめの授業・教材だと思います。

寺島 「場面」、つまり社会で遭遇する様々なシチュエーションにもとづいて英語を学べる、ということが教材の魅力の1つなのです。



現実の「場面」にもとづいて英語表現を学び、自分のものにする

伯井 確かに、どんな場面での会話なのかセットなので、なんとなく知っていた単語や表現の「使いどころ」がわかるようになったと感じます。

小関 そうですね。場面で英語を学んで、自分のものにしていくことが重要です。

寺島 さらに本学では、そういった場面設定も含め、内容を各学科の専門教育に連携させています。例えば調理・製菓学科と栄養学科が使用する「Food Science」のコースでは「ヒラメを捌く時は何枚に下ろすか?」といったような質問が英語で出題されます。専門的な単語や設問が出てきますので、我々英語教員も事前に下調べをします。先ほどのヒラメもそうですが、正直この授業を通して初めて知る知識もあります(笑)。

—学科ごとに、将来働く現場を想定した表現に触れるのですか。例えば経営会計学科では、金融関係か



ら一般企業まで幅広い進路が想定されますが、英語力は求められるのでしょうか。

中村 はい。グローバル化が進む中、海外支店を持つ企業は多く、海外の顧客とのやり取りも増えていますので、あらゆる業種において英語運用能力は重要です。ある地方銀行に就職した卒業生が、入行してすぐに為替に関する業務を担当し、英語を使うことになったそうです。大学での英語の学びの重要性を実感したと言っていました。

小関 レストランでは外国人の調理師と働くことも多いですからね。教育機関でも外国人園児、児童の割合が増えていますから、すべての学科において将来英語の活用を迫られる可能性があります。その時に慌てないよう、実践的な英語力を身につけてほしいです。

前田 現在就職活動で様々な企業を受けていますが、将来仕事で海外の方と関わった時に物怖じせずやりとりできるように、引き続き頑張りたいです。

▼2年生向けActive Englishの開講をめざす

—Active English I・IIは1年生の授業ですが、今年度より経営会計学科で2年生用のLinc English教材を導入されたそうですね。

中村 もともと経営会計学科に「ビジネス英語」という2年生の選択科目があったのですが、この授業で教材としてLinc Englishを使用してはどうか、という案がありました。そこで、1年生のActive English I・IIで経営会計、観光、グローバルコミュニケーション学科が使用する「Global Business」というコースから、より経営会計学科専用に内容を厳選した教材を作り、運用しています。この授業も寺島先生が担当ですが、なんと受講者が予定の3倍以上に増えました。

伯井 難易度は上がっていますが、新しい表現を知るのが楽しい。それに寺島先生の授業は発言しやすい雰囲気なので、皆で一体になって学んでいる感じがします。

—Linc Englishを使用した英語学習に学生たちが意欲的になっているということですね。

小関 はい。Active English受講1期生の学生が2年生になっても英語学習に積極的になってくれたことには、今後が楽しみと感じます。現状では、観光、グローバルコミュニケーション以外の学科では2年生になると英語を学ぶ授業がなくなります。そこで、1年次にActive English I・IIで生きた英語を学んで、もっと学びたい!とってくれる学生のために、2年生の英語学習の場を整えたいのです。まだ構想中ですが、ゆくゆくはActive English III・IV(仮)を(2年次の選択科目として)開講したいと考えています。

仕事で海外の方と物怖じせずやりとりできるようにしたい



今後、「Active English I・II」における学修成果の検証と改善、2年生向け科目の開講など、さらなる英語教育の進化に向けた取り組みが進んでいきます。それぞれのフィールドで英語コミュニケーション能力を持って活躍できるグローバル人材をめざして、英語学習に取り組みましょう。

新科目登場!

大阪成蹊女子高等学校

「グローバルキャリア教育」

—国際社会における自身の関わり方を学ぶ—

—「聞く」「話す」に特化したプログラム—

英語学習では、タブレット端末と「EVERNOTE」アプリの録音機能を使ったオリジナルプログラムを活用しています。課題を耳で聞き、声に出して教員に提出、指導を再び耳で聞く、というサイクルの中で実践的な英語力が身につきます。

—「世界を知る」新科目—

今年度より2年生の新科目「グローバルスタディ」を開始。「世界を知る」を目的に、タブレットを使って世界各国の基礎知識を学びます。海外修学旅行の事前学習の役割も兼ね、修学旅行をより有意義なものにすると同時に、グローバル社会への関心を高めます。

—充実の海外研修、提携校との交流—

海外への修学旅行だけでなく、「オーストラリア語学研修」、「海外キャリア研修」など、海外研修プログラムが充実。海外提携校との生徒相互派遣などの交流も行っています。(5面でも紹介しています)

—国際理解教育の実践—

本校は「ユネスコスクール」に加盟予定(申請中)です。ユネスコスクールとは、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育の発展を目的に、文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会が設置するものです。本校では、世界の教育問題について学ぶ「世界一大きな授業」の実施やESDカレンダーの作成を進め、さらなるグローバルキャリア教育の発展に取り組んでいます。



ベルリッツの

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学・大阪成蹊女子高等学校

レッスンで英語力とグローバルスキルを磨く!

English *CELL* —ますます積極的に活用されています—

大手英会話スクール「ベルリッツ」の英会話授業が「学内で」「無料で」受講できるEnglish *CELL*。利用登録者は開設当初の2015年度前期から現在にかけて大学・短期大学では67名→151名と着実に増加、大阪成蹊女子高等学校では以前より週に20名×5コマ=100名が利用しており、学生の間でますます積極的に活用されています。

English *CELL*では月曜から金曜に合計15コマのレッスン(高校生クラス5コマ、大学・短期大学生クラス10コマ)を開講。5~15人前後の少人数制で、ロールプレイを中心に英語のみを使ったベルリッツならではの手法でレッスンを行っています。その他、Summer Party、Halloween Partyなど時期に合わせたイベントレッスンもっており、楽しみながら英語力を身につけられると学生からも好評です。

2017年7月には初の試みとして、ベルリッツ主催の特別セミナー「グローバル社会の心得」が行われました。英語力のみならず、様々な国籍・文化の人々や価値観に対応するグローバルスキルの形成をめざし、ベルリッツ監修のもと、講義やゲームが行われました。本学園が注力するグローバル人材の育成に向けて、English *CELL*はますます大きな役割を担っていくでしょう。

今後も、通常のレッスンはもちろん、様々なイベントレッスンや特別授業などの実施も検討しています。まだEnglish *CELL*を利用したことがない学生の方は、ぜひこの機会に足を運んでみてください。(問い合わせ先:教務部)



もっとグローバル!

次のページでは、2017年度さらに進化する本学園の海外研修・留学制度についてご紹介します。

国際交流 from OSAKA SEIKEI GAKUEN to the world!!

海外でアクティブラーニング!

海外研修・留学制度でグローバル人材になろう!!

大阪成蹊学園では、国際社会で活躍する人材の育成を目的にグローバル教育を推進しています。

2017年度、海外研修が

「グローバル・アクティブラーニングプログラム」としてさらに進化



大阪成蹊学園では、2016年度「グローバルスタディ」として実施していた海外研修プログラムについて、2017年度はその内容をさらに見直し、「グローバル・アクティブラーニングプログラム」として実施します。

学生間で発表・振り返りを行う、といった流れで学生が主役となって協働して学びます。このことにより、海外での学びをさらに深く有意義なものとし、グローバルに活躍できる人材となることをめざします。



学部・学科の専門教育と連携した多彩なプログラムを導入

「グローバル・アクティブラーニングプログラム」では、普段それぞれの学部・学科・コースで学んでいる専門分野の知識やスキルを深めるプログラムが充実しています。

奨学金制度が参加をサポート

大阪成蹊学園では、多くの学生が海外研修プログラムに参加できるように、研修費用の一部を奨学金として学生に支給しています。

Table showing scholarship support for 2016 and 2017 programs across various departments.

2017年度 グローバル・アクティブラーニングプログラム一覧(予定)

Table listing 2017 Global Active Learning programs including overseas sports business, management, and art courses.

Table listing 2017 programs for Glico University of Sports, including exchange and international expedition programs.

Table listing Osaka Seikei University programs, including international exchange and cultural immersion programs.



語学研修・その他(予定) グローバル・アクティブラーニングプログラムのほか、語学研修のプログラムも実施しています。

Table listing language and other programs at Osaka Seikei University.

Table listing language and other programs at Glico University of Sports.



イタリアの料理と食文化を「目」「耳」「舌」でたっぷり学ぶ

参加プログラム:「ヨーロッパ食文化研修旅行(正課内)」(2017年2月~3月,8日間) 渡航先:イタリア



ローマ、ナポリ、シチリアを巡り、イタリアの料理と食文化について「目で見て、耳で聞いて、舌で味わって」たっぷり学びました。

イタリアで出会った人々は皆、食に関する仕事に強い誇りを持って働いていて、彼らの姿から大きな刺激を受けました。



Advertisement for exchange students featuring photos of students and text in multiple languages.

Advertisement for Osaka Seikei Women's High School featuring photos of students and text about international experience.

教育コラム②

人間力を伸ばす 10の教訓

パーソナル・ブランド・ マネジメント



大阪成蹊学園理事長・総長 石井 茂

とうりふげんかじせいけい 「桃李不言下自成蹊」

この大阪成蹊学園の建学の精神は、中国の前漢時代に活躍した司馬遷《紀元前145年生まれ》が編纂した歴史書「史記」の第109巻「李将軍列伝」に由来しています。

「桃や李は何も言わないが、その美しい花や実にはひかれ人が集まってくる。そしてそこには自然に小道（蹊）ができる。人も同様で、徳が高く信頼される人物のもとに人々が集まり繁栄する」という意味です。

人を桃や李に譬えたこの一節は2000年以上の年月を経た今日の時代にあっても普遍的な価値を持ち、多くの人々に深い感銘と示唆を与える言葉として生きています。

人の幸せとは何か

私は学生のころから「人の究極の幸せとは何か」ということを考えることが好きでした。そしてこれまで様々な経験を積み重ねた結果、現在最も幸せなことは《人や社会の役に立ち、人々に信頼され慕われて、「志」や「想い」を共有できる人々とともに過ごすこと》であると考えようになりました。

このことは、正に本学園の「建学の精神」の教えそのものであり、「人や社会の役に立ち、人々から信頼され慕われる人」を育てることが、本学園の究極の教育目的であり学生・生徒や教職員の皆さんの幸せに繋がることだと考えています。

人の役に立つ人になる

それでは社会や人の役に立つ人物になるためにはどのような力が必要でしょうか。一般的には社会人基礎力・問題解決力・コミュニケーション能力などと言われていますが、私は具体的には次の5つの要件が重要であると考えています。

- (1) 「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」など、学習や実践を通じて身につけた「思考力」・「表現力」・「行動力」
- (2) 豊富な「知識」や「経験」により養われる、価値判断や問題解決のための「知恵」
- (3) 困難な環境や局面をも克服する「強く柔軟な心」
- (4) 他人に対する深い理解と「思いやりの心」
- (5) 人から信頼される人格・品性

これらの要件は人間としての総合力であり、本学園では「人間力」と呼んでいます。

「パーソナル・ブランド・マネジメント」 ～PBMプロジェクト～

本学園では、平成29年度より学生の皆さんや教職員の皆さんが、自己の人間力を飛躍的に高めるために、従来の「ブランド力向上運動」をより発展させ「パーソナル・ブランド・マネジメント」～PBMプロジェクト～を展開しています。

このPBMプロジェクトは、従来のマナー向上を中心としたプロジェクトから、人間としての基礎学力・精神力・人格・品性にまで踏み込んだ総合的な「人間力の向上」をめざしたプロジェクトとして展開をしています。

パラダイムの大改革

このプロジェクトの具体的な推進は、PBL (Project Based Learning: 課題解決型学習) やアクティブラーニングなどの手法による初年次教育・キャリア教育・専門演習・地域・海外連携授業・インターンシップなどの授業改革を通して展開して行きますが、人間としての飛躍的な成長をめざすためには、まず学生・生徒・教職員の皆さんが自己の基本的な考え方や生活習慣の抜本的な改革を行うことが不可欠です。

「小さな変化をめざすなら、行動を変えればよい。しかし飛躍的な変化をめざすなら、パラダイムを変えなければならない」というのは、「7つの習慣」で有名なスティーブン・R・コビー博士の言葉ですが、まさに心と文化や習慣の大改革が不可欠です。

そこで、大阪成蹊学園の学生・生徒の皆さんや教職員の皆さんが、過去に積み上げた自身のパラダイムの抜本改革を行い、品格と人間力を兼ね備えた人材として成長するための10の教訓を紹介いたしますので、参考としてください。

人間力を伸ばす10の教訓

1 跳ばない 蚤(のみ)になるな

蚤は自分の身長150倍もの跳躍力をもっている。しかし長期間コップの中に閉じ込めておくと、跳ばない蚤になってしまう。

人間も同様で、悪い条件にとらわれ過ぎ自分は何も出来ない人なのだ、という悪いパラダイムを持ってしまると、その人の成長は止まってしまう。

自分の潜在能力の大きさに気づき、可能性を追求しよう。

打たないシュートは永遠に入らない。

2 夢を描きチャンス 呼び寄せる

自分の将来や、自分が所属する会社や組織やチームの輝かしい将来を空想しよう。良くしたいという気持ちが強ければ、夢を実現するチャンスは必ずやってくる。そして夢に向かって一歩前に踏み出すとチャンスは容易に捕獲できる。また見逃すこともない。対応が遅れるとチャンスはすぐに通過ぎてしまう。

3 目標は大きく、 他の追従を許さない

「目標」の大きさは「志」の大きさ、

「志」の大きさは「努力」の大きさ、

「努力」の大きさは「成果」の大きさ。

少子化で競争の激しい時代は優劣の格差が出る時代。努力する人にとっては成長発展の絶好のチャンス。大きな目標に挑戦し、他の追従を許さない成長を遂げよう。

出過ぎた杭は打たれない。

4 自分の生き方は、 自分で責任をもつ

主体性があり頼りがいのある人は、自分の生き方や言行に責任を持ち、自ら歩むべき道を自分で決定する。そのような人は、環境を変え、流れを変え、悪い行動パターンを断ち切って好循環を実現する。

一方、主体性の無い人は、すべて外界のせいにする。社会が悪い、政治が悪い、会社が悪い、環境が悪い、他人が悪い。

外からの影響に反応だけをしている人生はつまらない。

5 日々結論を出し 前に進む

難しい課題に直面したとき、何度も何時間も同じ議論をして、徒に時を費やしていることがある。総論やあるべき論にのみ終始し、具体的な解決策が一向に出てこないからだ。

この様なときは日々結論を出し、良いと思ったことは小さいことでもまず実行することが肝要である。

実行の中から次の手が浮かび、小さい成功の蓄積が大きな成果へと発展する。

6 得意な分野を切り拓く

人間の生物としての最盛期は18歳から25歳と言われている。

40歳を過ぎると医学的には前頭葉が萎縮し始め毛細血管も減少するからだ。

しかし人類は身体的な最盛期を過ぎてからの人生が極めて長く、人生の充実や味わいという点からみて中年以降の人生が極めて貴重である。中年以降充実した人生を過ごすには大好きで得意な分野を持つということである。

学生時代に時を忘れて没頭するものを見つけた人は幸せになれる。

7 他者のために働け

職業を持って働く時に、最も気をつけなければならない重要なことがある。それは「誰のために働くか」ということと「何のために働くか」ということだ。

私は①世界・国家・社会のため②学生・生徒・園児・保護者の皆さんのため③学園のため④教職員のため⑤家族のため⑥自分のためという順序で考えるように心掛けている。

他者の幸せのために働くという大義に生きることと、自分を最下位に置くことが最も重要である。

8 クイックレスポンス、 早いことが誠意

人から物事を頼まれたり上司から仕事の指示を受けたりしたときは次の5点に留意する。

- ①初期段階で依頼や指示の趣旨・方向性を確認する。勝手解釈は厳禁。
- ②必ず期限を確認する。期限の無いものは原則翌朝報告。
- ③完璧さよりスピードを優先する。
- ④時間のかかる事項は必ず中間報告をし、完結の目途を示す。
- ⑤何事も今やれることは後回しにしない。放置・遅延・引き伸ばし癖が信用を損ない人をダメにする。

9 リスク管理

大きな問題、トラブルが発生したときは次の基本方針で対応しよう。

- ①困難なこと、心配なことがあれば逃げずに即対応。
- ②初期段階で事態を正しく理解する。
- ③悪いことほど上司・関係先にすぐ報告。
- ④人のせいにしない。たらい回しをしない。
- ⑤相手の申し出が正しいときは、言い訳せず誠意をもって謝る。
- ⑥当方の立場が正しければ、十分説明しご理解いただく。
- ⑦不当な要求、相応性の無い要求に対しては、明確に断る。
- ⑧問題が解決すれば再発防止策を徹底的に検討し、ルール化して周知徹底する。

この世の中で発生した問題はすべてこの世の中で解決する。

10 品格を磨く

大阪成蹊学園の教育のすべては、次の3点から始まる。

- ①「時をまもり」周囲から信頼される人になる。
- ②「場を清め」周囲を美しくすることで気づく人になる。
- ③「礼を正す」挨拶をすることで人と心が通じ合える人になる。

また行動指針の「忠恕」の「忠」は誠実、「恕」は女性の巫女が神からのご託宣を心に受け止めているというのが語源であり、「真実の心」であり、正しい理解の上に「人を思いやること」にも通じる言葉である。

私は「忠恕」こそ人間最高の品格であり教養であると考えています。

News & Topics — 教育・学生サポート —

大阪成蹊大学

マネジメント学部
スポーツ
マネジメント学科

90人 ▶ 110人

2018年4月入学定員増

2018年4月、マネジメント学部スポーツマネジメント学科の入学定員が90人から110人に増加します。

スポーツマネジメント学科は、前身であるマネジメント学科スポーツビジネスコースの学びをさらに進化させる形で2016年4月に開設されました。近年、スポーツ産業における経営学に関する学びを修得した人材への社会的な需要は非常に高まっています。そのため、本学ではスポーツ産業界での活躍を志す多くの学生の夢を叶えることを目的に、入学定員を拡大します。

2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、日本のスポーツは経済、政治、文化、メディア、教育など多様な分野との結びつきをますます深めており、スポーツ参画人口の拡大が進んでいます。

スポーツマネジメント学科では、今後も多彩な教授陣による授業や学外フィールドワークを通じて、マーケティングや財務分析など、スポーツ産業界における経営や企画、管理、運営に必要な専門性を身につけ、多様な課題の解決に貢献できる人材育成をめざします。



大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学・びわこ成蹊スポーツ大学

2017年卒就職率
99.4%
(3校平均)

就職活動最前線!

2017年3月卒業生の就職率が確定しました。大阪成蹊大学では98.2% (全国平均97.6%)、びわこ成蹊スポーツ大学では99.6% (全国平均97.6%)、大阪成蹊短期大学では99.7% (全国平均97.0%)となり、昨年に引き続き2016年度(2017年卒)も多くの学生の希望進路を実現することができました。

相川キャンパスでは本年度も2ヶ月に一度の合同企業説明会、ほぼ毎週開催される個別企業説明会で多くの企業を学内に招き、内定獲得を支援しています。2017年3月17日(金)には、3校合同による「学園内合同企業説明会」を開催。昨年度を上回る70社の企業や団体が出展し、計665名の学生が参加しました。



2018年卒の就職活動では、3月から各企業が本格的に説明会を開始しており、6月には選考・内々定出しのピークを迎えます。選考のスケジュールは企業によって異なりますので、まだ内々定を獲得していなかったとしても、焦らず落ち着いて取り組んでいきましょう。就職部では、応募書類の作成サポートや面接練習、希望企業の検索など、皆さんの就職活動をしっかりとサポートしていますので、いつでも相談に来てください。また、夏以降にもたくさんの企業から求人票が届きますので、ぜひ定期的に就職部へ足を運んでください。

来年に就職活動を迎える皆さんは、インターンシップなどの機会を活かして多くの業界・企業について理解を深めましょう。9~10月には「就活キックオフセミナー(大学・短期大学)、キックオフガイダンス(びわこ成蹊スポーツ大学)を皮切りに、本格的に就職活動に向けた準備がスタートします。本番に向けて、しっかりと準備を進めていきましょう。

来年に就職活動を迎える皆さんは、インターンシップなどの機会を活かして多くの業界・企業について理解を深めましょう。9~10月には「就活キックオフセミナー(大学・短期大学)、キックオフガイダンス(びわこ成蹊スポーツ大学)を皮切りに、本格的に就職活動に向けた準備がスタートします。本番に向けて、しっかりと準備を進めていきましょう。

2017年3月 卒業生 実績表	就職率(就職者数/就職希望者数)		就職希望率(就職希望者数/卒業者数)
	学園全体	99.4%	
	大阪成蹊大学	98.2%	88.0%
	びわこ成蹊スポーツ大学	99.6%	85.1%
	全国平均(四大)	97.6%	74.7%
	大阪成蹊短期大学	99.7%	94.8%
	全国平均(短大)	97.0%	82.3%



大阪成蹊女子高等学校

Let's study
by your pace!

eラーニング教材

「ラインズドリル」で基礎学力を向上

今年度より新入生の入学前学習課題を一新し、eラーニング教材「ラインズドリル」の活用を開始しました。中学校までの各教科の内容を効率良く復習できる教材で、パソコンやタブレット、スマートフォンなどを使って自主学習に取り組みます。基礎学力の向上には、家庭学習を中心とした自ら学ぶ時間、そして反復学習が欠かせません。自分の時間をうまく使いながら繰り返し学べる教材として非常に効果的と言えます。

学習の流れ

- まずは「実力診断テスト」にチャレンジ!
- つまずいたところを、ドリルと解説教材で学習
- 再度「実力診断テスト」にトライ!



各教科が6分野に分かれており、まず分野別の実力診断テストによって自動的に自分の不得意分野が分析され、状況に合わせた最適な教材を通して学ぶことで苦手を克服できます。また、生徒たちの成績や利用状況は教員が一括で把握できるようになっており、さらなる学習が必要な生徒には適切な指導を行います。

生徒たちは端末の操作に慣れていることもあり、クイズを解くような感覚で積極的かつスムーズに学習に取り組んでいるようです。時代に合った自主学習の形として今後も積極的に活用し、基礎学力のさらなる向上を図っていきます。

元パラリンピック代表選手による特別授業を開催



大阪成蹊女子高等学校スポーツコースでは、「多角的にスポーツを捉え、それを基盤に幅広い知見と、豊かな人間性を育む」をテーマに、多様な出張講義や学外授業を行っています。2017年5月17日(水)、パラリンピックサポートセンター主催の「あすチャレ!スクール」をスポーツコース全学年対象に実施しました。車椅子バスケットボール競技で4期連続パラリンピックに出場した神保康広氏を講師に迎え、生徒たちはトップパラアスリートと共に車椅子バスケットボールを体験しました。

生徒たちは、日本代表を経験した選手と同じフィールドに立ち大きな刺激を受けただけでなく、障がいの有無に関わらず、全ての人が可能性を持っていることに気づくことができました。スポーツが可能性を広げ、人と人を繋ぎ、夢や目標を持って挑戦する力を与えてくれることを改めて実感しました。

スポーツコースの生徒たちにとってスポーツは生活の一部です。この貴重な経験が、彼女たちの新たな挑戦の糧となることでしょう。



News 胸、高鳴る! キャンパス&設備拡充進む!

びわこ成蹊スポーツ大学

▶「中央棟」竣工

以前より建設を進めていた新施設「中央棟」がついに完成し、竣工式が2017年7月15日(土)に執り行われます。「中央棟」は地上4階建てで、総床面積は約4,170平方メートル。最上階には、琵琶湖の広がりや比良山系から比叡山までの美しい稜線を一望できる520名収容の展望レストランを備え、学生・教職員の交流と憩いの場となります。施設内にはアクティブラーニングなどあらゆる授業



形態を可能にする講義室が3室配置され、活発な授業を展開します。また、学長室を始め大学運営や学生サポートを担うオフィスの多くが集約され、大学の新たな中核的施設として機能します。

▶男子寮・女子専用アパート入居開始

また、4月よりアスリート寮「MUSASHI」と女子専用アパート「クレア堅田」の運営を開始しました。「MUSASHI」はスポーツ活動に打ち込める環境が整備された男子専用の学生寮。トレーニングルームの他に、ミーティングなどに使用するコミュニティラウンジやラーニングエリアを完備。栄養バランスを考えた食事(朝・夕)を提供し、学業とクラブ活動をサポートします。

女子専用アパート「クレア堅田」はJR堅田駅から徒歩2分の好立地で、入居者のコミュニケーションを図る談話室として利用できる共有スペースを備えます。隣接する警備会社と提携し、セキュリティ面でも安心して学生生活を過ごすことができます。



大阪成蹊女子高等学校

▶「新美術棟」2018年3月完成予定

大阪成蹊女子高等学校では、2018年3月の完成をめどに「新美術棟」を建設中です。従来の食堂棟と、隣接していた部室棟があったスペースに、広い新美術棟が誕生します。1階には憩いの場となるガラス張りの明るい食堂、2階から4階は各フロア3教室分の広さのある実習室や工芸室、教室を備えます。従来の美術棟は校舎から距離がありましたが、新美術棟は2016年に完成した美術科デザイン棟とともに校舎から近くなり、移動時間が短縮されます。

本校の美術科は、大阪の私学で唯一の美術科として人気を集めています。豊富な設備を備えた新美術棟で、さらなる充実した学びが可能となります。ご期待ください。

クラブ・個人大躍進! -アスリート&アーティストの活躍をPICK UP!-

大阪成蹊大学・短期大学

日本最高記録更新!

2017年4月23日(日)の吉岡隆徳記念第71回出雲陸上競技大会YOSHIOKAスプリントにおいて、青山聖佳さん(3年)が女子300mで日本最高記録となる37秒76で優勝しました。

また5月10日(水)~5月13日(土)の



第94回関西学生陸上競技対校選手権大会では、青山さんが女子400mで大会新記録を達成し優勝、中村水月さん(4年)が女子100m、200mにおいて大会新記録、関西学生新記録を樹立、辻本愛莉



中村さん



辻本さん

世界大会出場決定!

2月の第42回全日本バトントワリング選手権関西大会で関西代表に選ばれた4名が3月24日(金)~26日(日)

香さん(4年)が女子走幅跳で同じく大会新記録で優勝するなど、めざましい活躍が相次ぎました。さらに中村さんは4月29日(土・祝)2017グランプリシリーズ第3戦第51回織田幹雄記念国際陸上競技大会において女子100mでメダルを獲得、辻本さんは5月5日(金)2017水戸招待陸上兼水戸陸上競技大会で女子走幅跳で優勝を果たしています。



「第42回全日本バトントワリング選手権大会」に出場、高橋一生さん(2年)がアーティストティックワール男子シニア部門・ソロワール男子シニア部門で日本代表選手に選ばれ、8月にクロアチアで行われる

「KOBE CUP」でフットサル部初優勝!

3月14日(火)、15日(水)に神戸ワールド記念ホールで開催された「KOBE CUP 2017」で優勝を飾りました。全国9地域の大学リーグ上位チームが日本一を争うこの大会で北海道大学、香川大学、神戸大学、鹿児島大学と強豪校を破り、優勝を決めました。



新たに強化クラブ入り 吹奏楽部

昨年1月に発足した吹奏楽部が、4月より学園のバックアップのもと強化クラブとして活動を開始しました。今後は学内外での精力的な演奏活動をめざします。



びわこ成蹊スポーツ大学

Jリーグ誕生!! ヴィッセル神戸へ

サッカー部の宮大樹さん(4年)が、Jリーグ(J1) ヴィッセル神戸に加入することが内定、本学10人目のJリーガーが誕生します。宮さんは入学後すぐに頭角を現し、1年次からトップチームでプレー。長身を活かしたヘディング、すばやく正確な前線へのロングパスで何度も決定機を作ることができるセンターバック



ク。大学日本代表に選出されており、Jリーグでも即戦力として活躍が期待されます。

ロンドン世界陸上出場へ

2014年卒業生で愛知製鋼株式会社陸上競技部所属の丸尾知司選手が、8月にロンドンで行われる第16回世界陸上選手権大会男子50km競歩の日本代表に選ばれました。在学中は陸上



競技部に所属、西日本対抗選手権大会10000m競歩で優勝するなど活躍していました。

4人が日本代表選出!

2018年1月7日(日)~1月13日(土)にオーストラリアで開催される、「WFDF2018世界U-24アルティメット選手権大会」のメンバーにアルティメット部の学生4名が選出されました。U-24メン部門に石戸君弥さん(3年)、藤原睦さん(4年)、U-24ミックス部門に村上峻太郎さん(4年)、松嶋結優さん(3年)

が選ばれ日本代表として世界大会に出場します。



卓球部、2017年4月始動

2017年4月、学園に新たな強化クラブとして卓球部が立ち上がりました。元日本代表監督の村上恭和氏をアドバイザーとして迎えます。本年度スカウティングを進め、2018年4月より本格的に活動を開始する予定です。

大阪成蹊女子高等学校

再始動! 活躍に期待

学園卓球部の創部を受け、高等学校でも本年度から卓球部が復部しました。現在、部員数は1年生のみ6名ですが、先日のインターハイ大阪予選の大会で1年生ながら個人戦でベスト64に入る戦績を残しました。今後の活躍が期待されます。

大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園だより

春の遠足を開催 ~大人も子どもも顔見知りになろう~

こみち幼稚園では、毎年新年度が始まった4~5月の間に、園児と保護者が一緒に参加する「春の遠足」を実施しています。園児たちは、お弁当を持って遠足、しかもお家の人と一緒にということで、とても嬉しそうに豊かな緑の中でのびのびと遊んでいました。保護者の方々にとっては、新クラスの担任教師・他の保護者の

方と、一年間共に子ども達の成長を見守り、助け合っていく仲間としての関係を築く第一歩となったように思います。大人も子どもも顔見知りになることで、健やかで温かい繋がりが育まれることを願っています。



年長組 2017年4月20日(木)に鶴見緑地公園を訪れました。風車前のチューリップ畑が美しく、その前でクラス写真を撮ったり、自己紹介をしたりしました。

年中組 2017年5月18日(木)に千里中央公園を訪れ、草花を摘んだり、体操やフォークダンスを楽しんだりしました。

年少組 2017年5月10日(水)に南千里公園を訪れました。つつじのトンネルをくぐって遊ぶ姿は微笑ましいものでした。

第7回大阪成蹊全国アート&デザインコンペティション

未来への発信

Osaka Seikei ART & DESIGN Competition 2017 作品募集

大阪成蹊学園では、未来のための人材発見を目的として、大阪成蹊大学芸術学部、大阪成蹊女子高等学校美術科との共催による「第7回大阪成蹊全国アート&デザインコンペティション2017」を開催します。また、授賞式を2017年11月18日(土)に開催し、受賞作品を大阪成蹊大学芸術学部棟(南館)1Fギャラリー<space B>にて11月18日(土)~12月3日(日)に展示します。

【募集期間】 2017. 9/1(金)~10/5(木)
【対象】 <高校生の部> 国内に在住する高校生 <中学生の部> 国内に在住する中学生
【詳細】 大阪成蹊大学WEBサイト内 <http://univ.osaka-seikei.jp/news/234> テーマから連想するものを題材として、自由に発想した作品を募集します。

学園同窓会「蹊友会」 思い出話に花咲く -2017年度総会を開催-

大阪成蹊学園同窓会「蹊友会」では、6月10日(土)に相川キャンパスにて2017年度の総会を開催、例年を大きく上回る239名の卒業生の皆様に各地からお集まりいただきました。当日は石井理事長・総長、藪田会長から各校園の現状説明があり、続いて昨年度の事業報告、決算報告、役員選出と本年度の事業計画案、予算案が発表されました。総会終了後には昼食会が催され、本学に長年勤務していた教員の挨拶を皮切りに、思い出話に花が咲きました。非常に幅広い年代の方々にご出席いただいた今回、皆様から「38年ぶりに先生や友人に会うことができ、懐かしく楽しい一日となりました」などの声が寄せられ、温かい雰囲気の中昼食会は閉会しました。蹊友会では今後も卒業生の皆様と学園を繋ぐ活動を続けてまいります。



2017 オープンキャンパス・オープンスクール 開催日程

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学
7/16(日)・7/23(日)・8/6(日)・8/20(日)
8/27(日)・9/24(日)・12/17(日)
公費推薦入試対策講座 一般入試対策講座

びわこ成蹊スポーツ大学
7/22(土)・7/23(日)・8/6(日)
8/20(日)・12/17(日)
詳しくはコチラ!

大阪成蹊女子高等学校
8/22(土)・9/30(土)・10/28(土)・11/11(土)
11/25(土)・12/2(土)・12/16(土)
詳しくはコチラ!